



大日本塗料株式会社

2019年3月期第2四半期 決算説明会

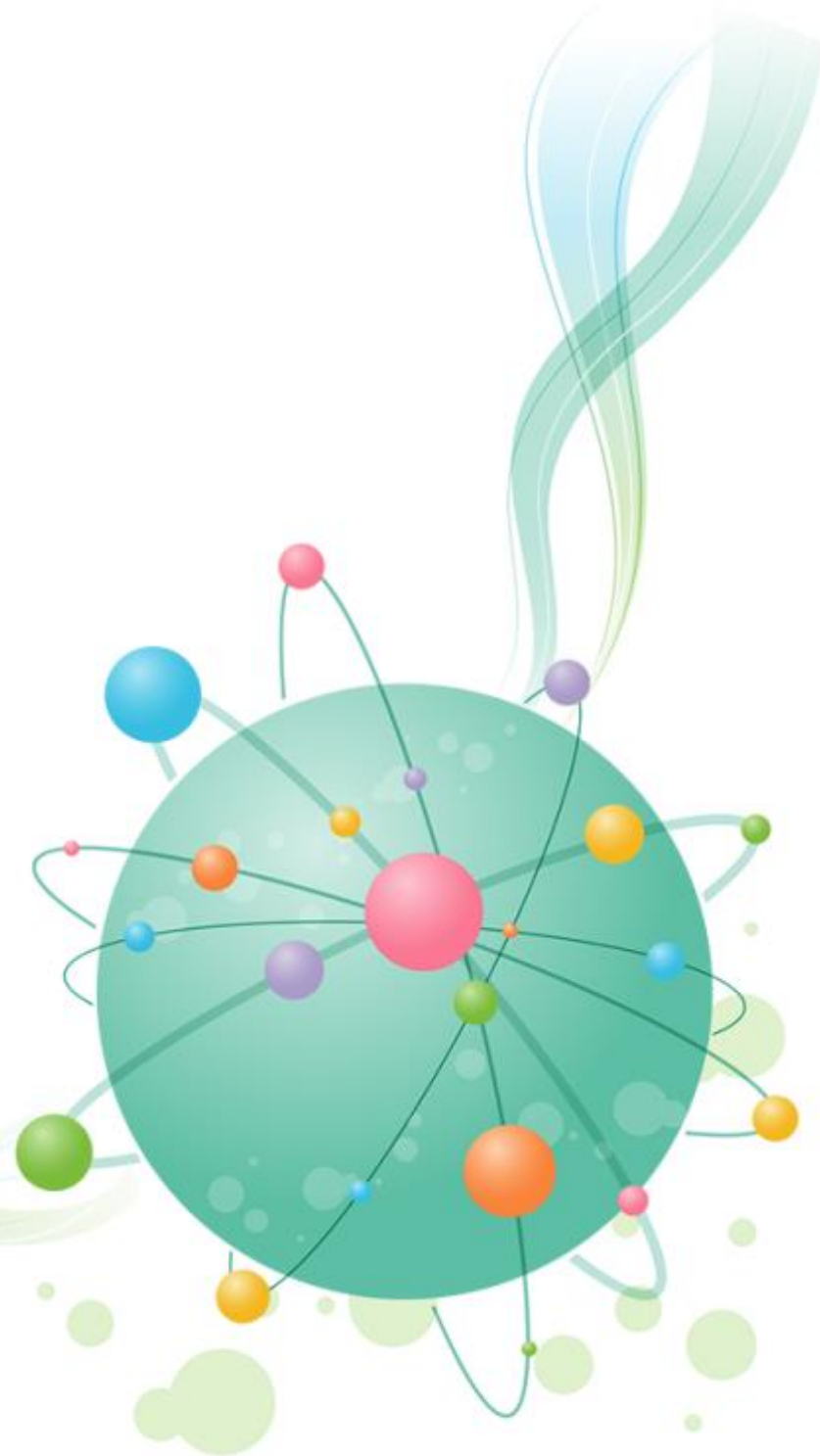
2018年11月26日

証券コード 4611 東証第一部



JPX-NIKKEI Mid Small

2016 - 2018年度選定





Part I . 決算実績・業績予想	P. 2
Part II . 経営戦略	P. 16
Appendix . 製品紹介、高機能塗料展出展 及び関連会社事業内容	P. 26

Part I . 決算実績・業績予想



1.DNTグループの概況



- 国内塗料は構造物塗料を中心に、建材塗料、金属焼付塗料（カーテンウォール）に強み
- 海外塗料は自動車部品用塗料を中心に、着実な成長を志向

海外塗料

- 自動車・プラスチック塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料



照明機器(DNライティング(株)/ニッポ電気(株))

- 業務用照明機器



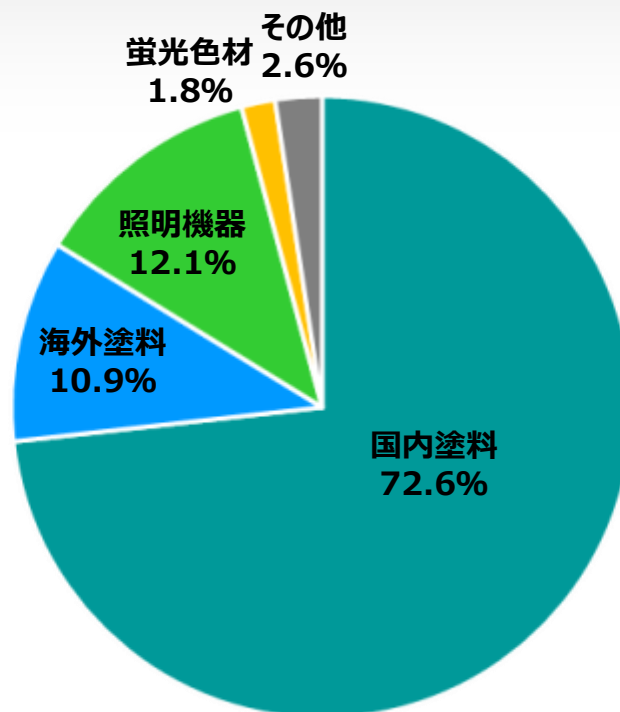
蛍光色材（シンロイヒ(株)）

- 蛍光塗料・反射塗料



売上構成

(2019年3月期第2四半期)
連結売上高：36,304百万円



国内塗料

- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 自動車・プラスチック塗料
- 自動車補修塗料
- ジェットインク等



その他

- エンジニアリング
(日塗エンジニアリング(株))
- 物流
(ニットサービス(株))



2. 2019年3月期第2四半期決算実績



① 決算概要総括

業界環境

- 前年度後半以降、石化製品および亜鉛・酸化チタン等主要顔料の価格高騰によるマージン縮小が加速

売上面

連結売上高 36,304 百万円 前年同期比 △ 282 百万円 △ 0.8%	国内塗料	26,339 百万円	△ 459 百万円 △ 1.7%	■ 構造物分野では市況回復も、建材分野の低迷により、減収
	海外塗料	3,958 百万円	+ 113 百万円 + 2.9%	■ タイでは自動車部品分野、中国では輸送用機器分野で増収
	照明機器	4,382 百万円	△ 26 百万円 △ 0.6%	■ 蛍光灯分野の市場縮小が進み、減収
	蛍光色材	637 百万円	△ 5 百万円 △ 0.8%	■ 顔料分野における市況低迷が続き、減収

利益面

連結営業利益 2,822 百万円 前年同期比 △ 467 百万円 △ 14.2%	国内塗料	1,436 百万円	△ 385 百万円 △ 21.2%	■ 減収に加え原材料価格高騰により、減益
	海外塗料	581 百万円	△ 141 百万円 △ 19.5%	■ 高収益な北中米市場での減収に伴い、減益
	照明機器	493 百万円	+ 51 百万円 + 11.7%	■ 製造経費や販管費の削減により、増益

2. 2019年3月期第2四半期決算実績

②損益計算書 (P/L) (連結)



(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期				
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比		
増減額					増減率		
売上高	36,587	100.0	36,304	100.0	△ 282	△ 0.8	■ 国内塗料での減収が響く
売上総利益	11,401	31.2	10,814	29.8	△ 587	△ 5.2	■ 原材料価格高騰の影響を強く受け、総利益率が低下
販売費及び 一般管理費	8,111	22.2	7,991	22.0	△ 120	△ 1.5	
営業利益	3,289	9.0	2,822	7.8	△ 467	△ 14.2	
経常利益	3,119	8.5	2,902	8.0	△ 216	△ 6.9	■ クレーム・製品補償の減少 161 ■ 為替差損の減少 57
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,441	6.7	1,789	4.9	△ 652	△ 26.7	■ 投資有価証券売却益の前年同期比減 △584
減価償却費	1,013	—	1,011	—	△ 1	△ 0.1	■ 前年同期比 (国内) 9 (海外) 1 (照明) △12
設備投資額	569	—	690	—	120	21.2	■ 前年同期比 (国内) 53 (海外) 44 (照明) 5 (蛍光) 18

2. 2019年3月期第2四半期決算実績

③セグメント別売上高・営業利益（連結）



(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期				
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比		
					増減額	増減率	
売上高	36,587	100.0	36,304	100.0	△ 282	△ 0.8	
国内塗料	26,799	73.2	26,339	72.6	△ 459	△ 1.7	■ 構造物分野で市況回復も、建材分野で低迷
海外塗料	3,845	10.5	3,958	10.9	113	2.9	■ タイでは自動車部品分野、中国では輸送用機器分野で増収
照明機器	4,409	12.1	4,382	12.1	△ 26	△ 0.6	■ 蛍光灯分野の市場縮小が進み、減収
蛍光色材	642	1.8	637	1.8	△ 5	△ 0.8	■ 顔料分野における市況低迷が続き、減収
その他	891	2.4	986	2.6	95	10.7	■ 首都圏の工事案件増加
営業利益	3,289	100.0	2,822	100.0	△ 467	△ 14.2	
国内塗料	1,822	55.4	1,436	50.9	△ 385	△ 21.2	■ 減収に加え原材料価格高騰の影響大
海外塗料	723	22.0	581	20.6	△ 141	△ 19.5	■ 高収益な北中米市場での減収に伴い減益
照明機器	442	13.4	493	17.5	51	11.7	■ 製造経費や販管費の削減
蛍光色材	71	2.2	30	1.1	△ 41	△ 57.8	■ 原材料価格高騰の影響大
その他	98	3.0	144	5.1	45	46.2	
調整額	132	4.0	135	4.8	3	2.6	

2. 2019年3月期第2四半期決算実績



(単位：百万円)

⑤貸借対照表 (B/S) (連結)

	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	33,432	34,703	1,270	
現金及び預金	4,428	5,274	845	
受取手形及び売掛金	18,561	18,689	128	■ (国内) 452 (海外) 35 (照明)△322 (その他)△44
たな卸資産	9,429	9,387	△ 41	■ (国内)△108 (海外)△100 (照明) 181 (蛍光)△17
その他流動資産	1,014	1,352	338	
固定資産	42,723	43,469	746	
有形固定資産	22,499	22,192	△ 307	■ 設備投資による増加655、減価償却△910、為替影響△44
無形固定資産	637	615	△ 21	■ 設備投資による増加83、減価償却△101、為替影響△6
投資その他の資産	19,586	20,662	1,075	■ 時価評価増に伴う投資有価証券の増加641 ■ 退職給付に係る資産の増加574
資産合計	76,155	78,172	2,017	
負債合計	32,806	34,155	1,348	
(借入金残高)	(1,991)	(4,009)	2,018	■ 子会社設立資金需要等への対応のため調達増2,020
純資産合計	43,349	44,017	668	
負債純資産合計	76,155	78,172	2,017	



⑥ キャッシュ・フロー計算書（連結）

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	2,109	1,354	△ 754	■ 主に営業利益悪化に伴うCF減
投資活動による キャッシュ・フロー	267	△ 940	△ 1,208	■ 設備投資に伴う支出増 △267 ■ 投資有価証券売却益の比較減 △673
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,193	537	2,731	■ 借入金調達増 3,087 ■ 配当金支払 △140 ■ 自己株式取得 △183
現金及び現金同等物に 係る換算差額	54	△ 101	△ 155	
現金及び現金同等物の 増減額	238	850	612	
現金及び現金同等物の 期首残高	3,953	4,256	303	
現金及び現金同等物の 期末残高	4,191	5,106	915	

3. 2019年3月期業績予想



① 連結業績予想のポイント

売上面

連結売上高 75,000 百万円 前期比 +880百万円 +1.2%	国内塗料	54,000 百万円	+625百万円 +1.2%	■ 首都圏中心にインフラ向け需要拡大 ■ 価格是正の顕在化
	海外塗料	8,150 百万円	+189百万円 +2.4%	■ タイ、中国では引き続き増収基調

利益面

連結営業利益 6,600 百万円 前期比 +11百万円 +0.2%	国内塗料	3,500 百万円	+33百万円 +1.0%	■ 価格是正と経費削減により、原材料価格の高騰をカバー
	海外塗料	1,350 百万円	△55百万円 △3.9%	■ 北中米市場での減収影響

3. 2019年3月期業績予想

②損益計算書（P/L）業績予想（連結）



(単位：百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2018年3月期		2019年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	74,119	100.0	75,000	100.0	880	1.2	■ 国内インフラ向け需要の拡大見込む
売上総利益	22,813	30.8	22,600	30.1	△ 213	△ 0.9	■ 価格是正により原価率上昇幅を抑える
販売費及び一般管理費	16,224	21.9	16,000	21.3	△ 224	△ 1.4	■ 各セグメントで経費削減に努める
営業利益	6,588	8.9	6,600	8.8	11	0.2	
経常利益	6,392	8.6	6,500	8.7	107	1.7	■ 2018/3期は製品補償引当金322計上
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,573	6.2	4,200	5.6	△ 373	△ 8.2	■ 2018/3期は有価証券売却特益595計上
減価償却費	2,022	-	2,100	-	77	3.9	
設備投資額	1,868	-	2,000	-	131	7.1	■ 設備投資本格化は2020/3期を予定

3. 2019年3月期業績予想

③セグメント別売上高・営業利益（連結）



(単位：百万円、%)

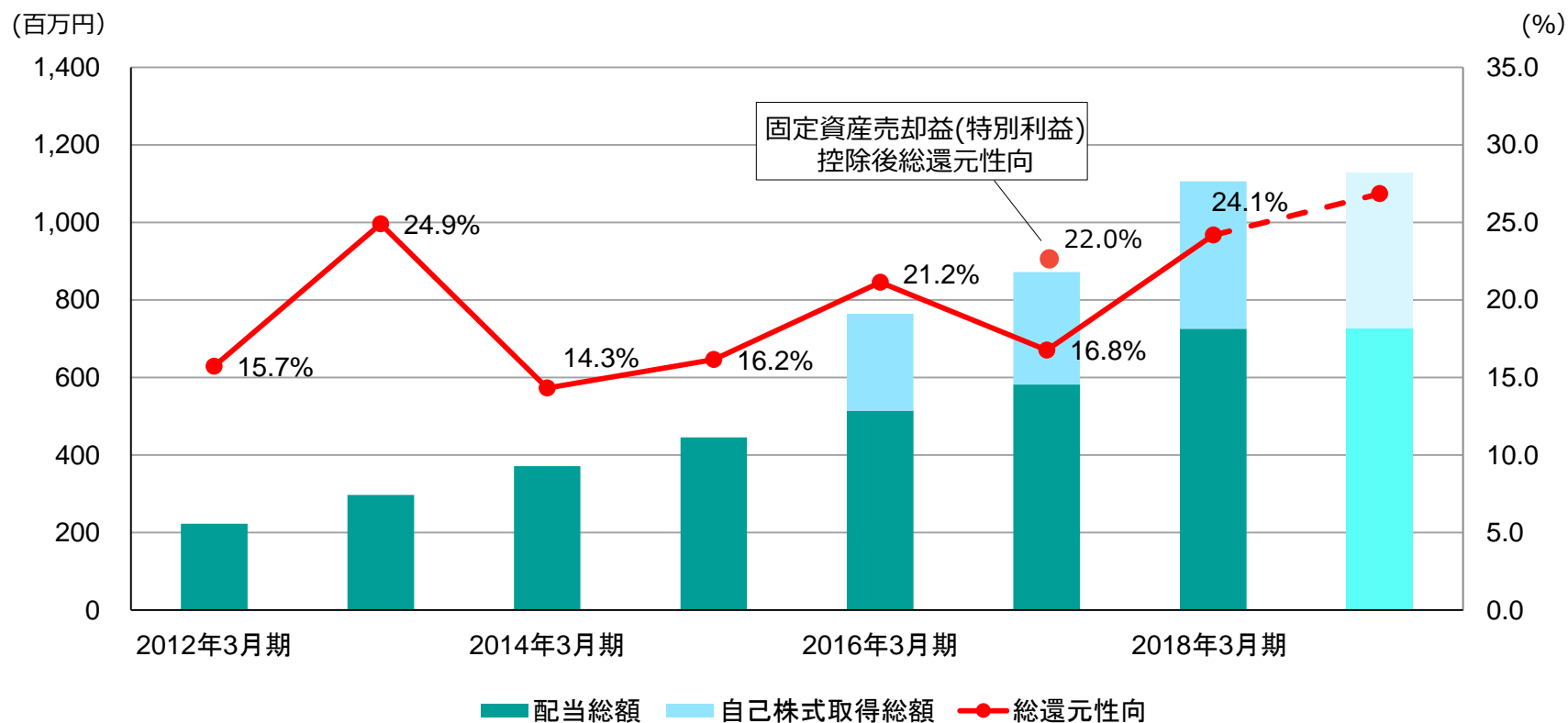
	実績		業績予想				コメント
	2018年3月期		2019年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	74,119	100.0	75,000	100.0	880	1.2	
国内塗料	53,374	72.0	53,900	71.9	525	1.0	■ 首都圏中心にインフラ向け需要拡大
海外塗料	7,960	10.7	8,150	10.9	189	2.4	■ タイ、中国では引き続き増収基調
照明機器	9,470	12.8	9,500	12.7	29	0.3	■ 首都圏再開発によりLED需要拡大
蛍光色材	1,275	1.7	1,350	1.8	74	5.8	■ 安全対策、環境配慮製品を拡販
その他	2,038	2.8	2,100	2.8	61	3.0	
営業利益	6,588	100.0	6,600	100.0	11	0.2	
国内塗料	3,466	52.6	3,450	52.3	△16	△0.5	■ 価格転嫁と経費削減で原料高をカバー
海外塗料	1,405	21.3	1,250	18.9	△155	△11.1	■ 高収益な北中米市場が減収基調
照明機器	1,146	17.4	1,250	18.9	103	9.0	■ 原価低減活動により収益力強化
蛍光色材	119	1.8	90	1.4	△29	△24.6	■ 原材料価格高騰の影響
その他	213	3.2	290	4.4	76	35.5	■ 五輪関連の工事需要の取り込み
調整額	236	3.6	270	4.1	33	14.1	

4. 株主還元

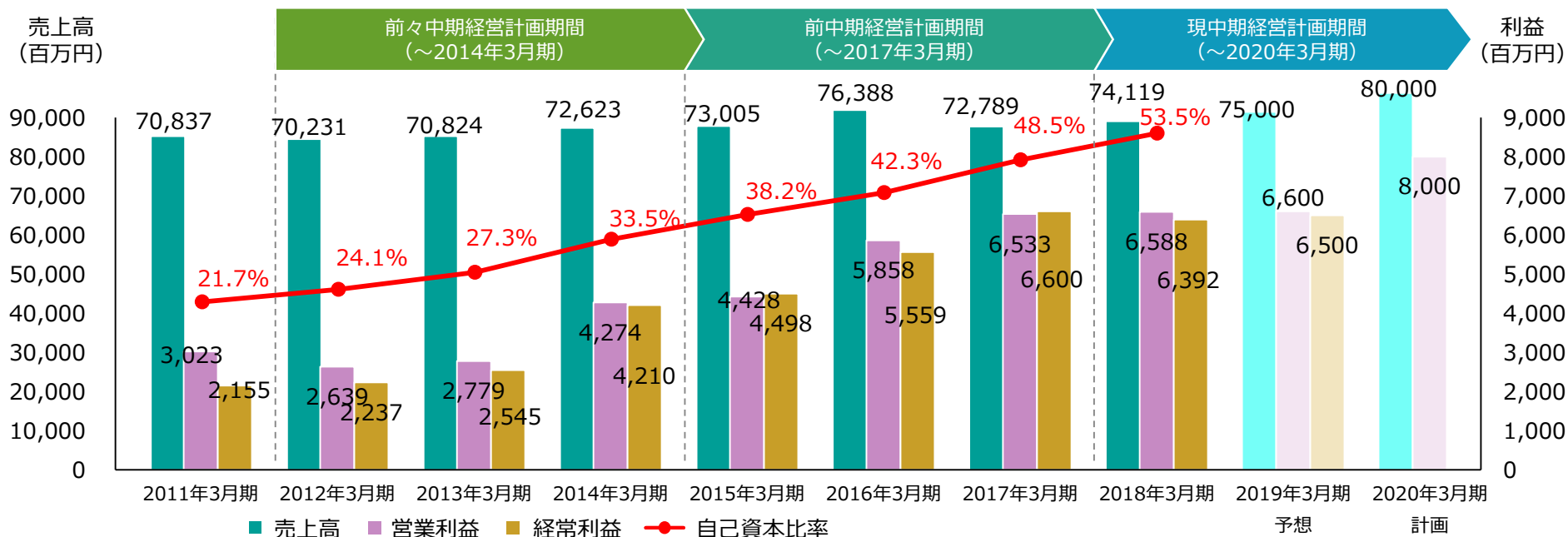


総還元性向推移

- 業績に連動した継続的な増配を着実に実施。
- 2018年5月11日開催の取締役会において、30万株、500百万円を上限とした自己株式の取得を決議
→ 30万株、402百万円で取得完了

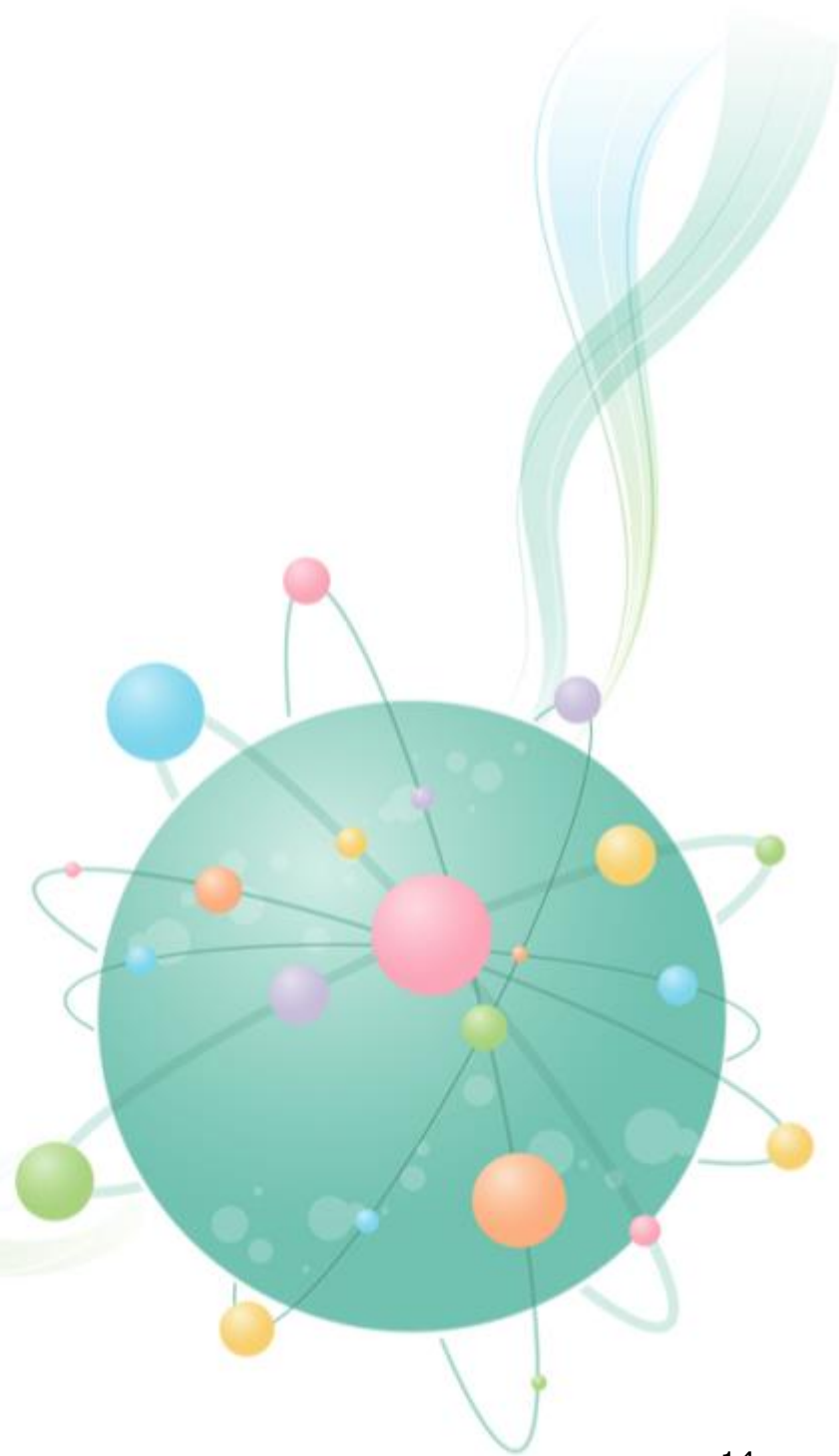


5. 連結売上高・利益推移



- 高付加価値品シフト/製品ポートフォリオの転換により高収益体質が定着
- 創出したキャッシュフローにより借入金を大幅圧縮、強固な財務基盤を実現。投融資余力が蓄積され新たな攻めのステージへ
—借入金残高：2011/3末 208億円 →2018/3末 20億円 (△188億円) →2018/9末 40億円 (△148億円)

Part II. 經營戰略



1. 経営理念とコンセプト



経営理念

当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、
広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します

大日本塗料の ポジショニング

ロケーション

- 国内：当社グループのメインマーケットとして重点事業分野に特化
- 海外：特定国の経営環境に対応した事業構造・商品に選択と集中

事業領域

- 構造物、建築物、建材を中心に高付加価値品に重点
- インクジェット・照明機器・蛍光塗料など他社にない独自分野

経営課題

- デジタルテクノロジー発展に伴う産業構造の変革により生じる素材の変化への対応
- 東京五輪後を境にインフラは新設からメンテナンスの時代へ突入、情報力・提案力・販売力構築が急務

商品開発をベースに顧客への
ソリューションの提案力強化

総合サービス力の拡充・強化

中期経営計画コンセプト

持続的成長に向けて、新たな高付加価値化へ挑む

2. 中期経営計画概要



コンセプト 持続的成長に向けて、新たな高付加価値化へ挑む

① インフラ需要の 確実な取り込み

インフラコーティングPJ

橋梁・
コンクリートシェアアップPJ

② 強みを生かした 市場開拓

構造物橋梁・
プラント新市場開拓

建材事業の高付加価値化

リフォーム事業拡大PJ

産業用インクジェット事業拡大

③ 国内塗料事業の 更なる強化

新素材、新基材への対応

メンテナンス対応の高度化

④ 海外事業の 積極拡大

海外事業拡大PJ

付加価値創出・効率化のための設備・R&D投資

M&Aの推進

	2018年3月期 実績	2020年3月期 目標
売上高	74,119	80,000
国内塗料	53,374	58,100
海外塗料	7,960	8,800
照明機器	9,470	9,900
蛍光色材	1,275	1,400
その他	2,038	1,800
営業利益	6,588	8,000
国内塗料	3,466	4,910
海外塗料	1,405	1,580
照明機器	1,146	950
蛍光色材	119	140
その他	213	150
調整額	236	270
営業利益率	8.9%	10.0%



3. 事業環境認識と方向性

- 「カスタマー・ファースト」の観点を開発から販売まで一貫、高付加価値で差別化された技術力の認知度向上による販売実績向上を図る

事業環境認識

大日本塗料の方向性

国内塗料

- **国内インフラ需要拡大による構造物分野の塗料拡大も、中長期的には横ばい**
 - 足元では石化製品の需要逼迫を背景とした原材料価格高騰がマージンを圧迫するも、中期的には販売価格是正進展による回復を見込む

- **差別化した高付加価値商品での利益向上**
 - 工程簡略化、エネルギー削減等顧客の価値に寄与
 - 新たなマーケティング展開など市場との接点拡大
- **プロセスイノベーションPJによる生産効率化施策を推進**

海外塗料

- **新興国を中心とした、市場拡大が継続**
 - 北米・中国・東南アジアを中心に日系メーカーの自動車部品市場は堅調
 - 重防食分野で資金・技術移転を伴うODAは今後も伸長
 - 世界最大の中国の塗料の民間需要は今後も拡大

- **日系自動車部品メーカーを軸としたサポートビジネス**
- **ODA関連の日系ゼネコン・ファブリケーター受注物件の採用**
- **中国浙江省での新工場による需要拡大への対応**
 - 溶剤系・水系・粉体塗料の3系列を最大5000トン/年を生産、海外事業の中核に
- **グローバル生産拠点としての東南アジアの役割拡大に対応**

技術革新への対応

- **膨大な社会ストックの経済的なメンテナンスが課題**
 - 温度・湿度など多様な現場環境に即した商品・工法提案が必要
- **新たな素材への対応**
 - 自動車の自動運転化、EV化による軽量化によるカーボン繊維・セルロースナノファイバーなど鉄・代替素材の普及

- **研究開発への積極的な投資**
 - 研究開発投資の拡大による更なる高付加価値化
- **防食センターによる新商品・工法の開発**
 - 大規模な構造部材設備を配備、温湿環境をコントロールしながら検証できる設備を整備
- **新素材センターによる新商品・工法の開発**
 - 新たな素材に適應した、塗料の開発や塗装方法を開発

① インフラ需要の確実な取り込み

- 五輪開催に伴う施設、再開発需要に対し、付加価値の高い遮熱性舗装・CW塗料等の拡販
- インフラ塗り替え市場をターゲット、首都高塗り替え工事を中心とした物件対応によりシェアアップを狙う

東京五輪等スポーツ施設関連

- 競技場関連の主要物件を受注
 - ー 武蔵野の森総合スポーツプラザ（完工済）
 - ー 熊谷ラグビー場（2019年ラグビーワールドカップ：完工済）



武蔵野の森総合スポーツプラザ



熊谷ラグビー場

再開発関連

- 首都圏新駅関連や、四ツ谷・日本橋・丸の内地区などの物件を受注



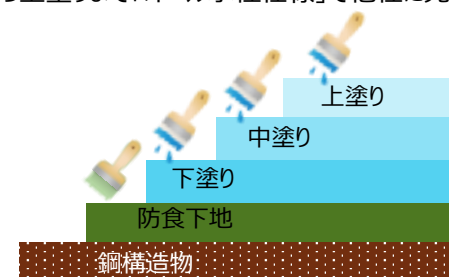
©渋谷ストリーム

橋梁・コンクリートシェアアップ

- 首都高塗り替え工事を中心に、差別化新商品による市場展開、更なるシェア拡大を図る

「DNT水性重防食システム」

- 防食下地から上塗りまで「オール水性仕様」で他社に先駆けた採用が進展



- ジンクリッチペイントから下塗り、上塗りまでオール水性化を実現（業界初）
- 溶剤形比VOC約90%削減／溶剤形比格段の安全性
- 橋梁への水性重防食塗料使用のモデルケース
 - ー 長野国道大原橋（2015～2016）



4. 経営戦略トピックス

②強みを生かした市場開拓

- 新市場である電力鉄塔、通信鉄塔の塗り替え需要に対し、ターゲットを絞った活動を展開
- 4社共同研究による革新的なインフラ設備補修用はく離抑制型塗料「αシリーズ」を先行発売。
3社以上の塗料メーカーによる新規塗料の共同開発は業界初

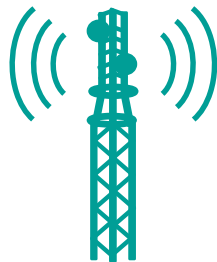
電力鉄塔・通信鉄塔新市場開拓

- 電力鉄塔は、西日本を中心とする四電力を対象に塗り替え需要に対応。各電力の要求を満たす製品を開発



電力鉄塔（出所：関西電力株式会社）

- 通信鉄塔は、塗り替え需要の多いキャリアを最優先に他社展開も実施。要求性能を満たした塗料システムを上市



4社共同開発による大型新製品「ケルビンα2.5」

- 塗料メーカー3社（大日本塗料、関西ペイント、神東塗料）と四国総合研究所の共同開発による革新的な「剥離抑制型弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料」
- 予防保全的にはく離リスクを低減することで補修コストの大幅な低減を実施



旧塗膜を残した状態で塗料を塗り重ねることで塗膜のはく離を抑制できるこれまでに類を見ないユニークな塗料

③国内塗料事業の更なる強化(1)新素材センター

- エネルギー消費量削減・CO₂削減方針の元、軽量化新素材を適用、また、新たな用途に向けた既存素材を適用する顧客に対し最適なコーティングシステム・デザイン・効率的コーティングのトータル的提供をめざす

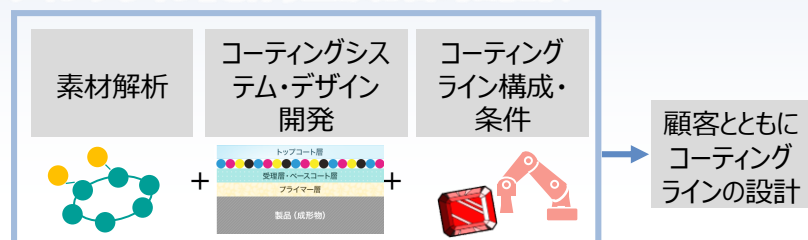
新素材センター（小牧）

【背景】

- ・ CO₂削減に向けた自動車・航空機等の軽量化素材対応
- ・ 耐久性、機能性向上等を目的とした既存素材の工業塗装需要の拡大

【目的】

顧客とともに「コーティングシステム・デザイン・効率的コーティングライン」を作り上げ総合的に提供



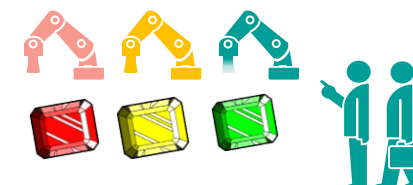
新素材センター概要

- 建設場所** : 小牧工場敷地内
建床面積 552㎡ **延床面積**1658㎡
竣工 : 2020年4月(予定)
投資総額 : 12.6億円(予定)



小牧工場

- 1 顧客が使用しようとしている素材・用途をキャッチ
- 2 素材の耐性等の性能解析 最適コーティングシステム提案
- 3 効率的コーティングライン/デザインの共同開発
- 4 コーティングラインの構成と条件の設計・提案



③国内塗料事業の更なる強化(2)防食センター

- 膨大な社会資本ストックを経済的にメンテナンスするかがテーマとなる中、LCCを踏まえた補修・補強の必要性
- 構造物の新設・メンテナンスにおける商品・技術・情報・サービスのトータル的提供による高付加価値を創出

防食センター（那須）

【背景】

メンテナンス工程の省力化、ライフサイクルコストの低減、作業環境保全、塗膜の劣化予測など多様なニーズに対応

【目的】

顧客とともに「防食分野の塗装対象物を維持管理する上で必要となる商品、技術、情報、サービス」を作り上げ総合的に提供

顧客への
ソリューション提供

- 塗膜及び構造躯体の劣化（寿命）予測
- LCCを考慮した新設・メンテナンス塗装仕様、効率的施工工法

防食センター概要

- 建設場所 : 那須工場敷地内
 建床面積 675㎡ 延床面積1000㎡
 竣工 : 2020年4月（予定）
 投資総額 : 10.2億円（予定）



那須工場

①新規寿命予測システムの開発

- 近距離または遠方からの塗膜や構造躯体の劣化診断技術の研究開発



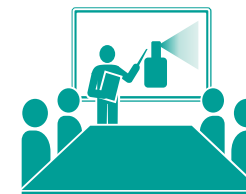
②新設・補修塗装仕様、施工工法の開発

- 様々な現場環境下で実構造物を模擬した構造物を用いた商品・施工工法の開発



③新技術の提案

- 新商品・新工法を実演しながら紹介～顧客にとっての価値を分かり易く提案



③国内塗料事業の更なる強化(3)プロセスイノベーションPJ

- 新しい技術を取り入れ少量多品種生産の抜本的効率向上を図る「プロセスイノベーションPJ」を各工場で開催

プロセスイノベーションPJ

少量多品種生産の抜本的向上・生産効率改善

少量多品種対応／大量生産エリア集約

レイアウト改善・自動化による設備改善
少量多品種の生産効率を改善

- 小牧工場リニューアル、生産効率の改善
 - － 大量生産品の工場内集約と効率化
 - － 少量多品種効率化の具体的な構想
 - － 粉体塗料の新ライン導入/メタリック粉体 能力増



タンク洗浄設備



自動ラック倉庫

自動制御

人間系での設備・生産管理から
DCS（分散制御システム）機能展開
IoT, AIの活用

- 那須工場DCSの制御範囲拡充
 - － 受注～原料発注～生産組入自動化検討
 - － 原材料の配膳、運搬、仕込みの自動化

調色工法

少量多品種の代表格「調色」の抜本改善
ベースの統合や共通化、色管理、調色データ一元化

- 調色データの一元管理
- 自動化対象品と投資内容の検討



自動調色設備



4. 経営戦略トピックス

④ 海外事業の積極拡大

- 中国（浙江省）に新工場の建設を決定
- タイにおける技術再編と機能強化による事業拡大

中国



- 環境・安全対策の整備を行い、溶剤系、水系に加えて粉体塗料の新たな製造拠点を確保し、更なる事業拡大を図る。

浙江省新工場概要

会社名 : 迪恩特塗料（浙江）有限公司
所在地 : 浙江省平湖市独山港経済開発区
事業内容 : 溶剤系塗料、水系塗料、及び粉体塗料の製造・販売
資本金 : 12百万USD(約1,400百万円)
出資者 : 大日本塗料（株）
出資比率 : 当社100%
稼働予定 : 2019年10月予定



- 生産能力の増強と環境規制への適応を目的
 - 2015年の天津港危険品倉庫火災爆発事以降の、環境・安全規制強化への対応
 - 生産能力を順次拡大、粉体塗料の内製化も行うことにより、海外関係会社の中でタイに次ぐ生産規模を目指す

タイ



- 東南アジアにおける自動車部品分野の積極拡大のため、技術部再編成と機能強化を図る
- 基幹システム導入によるシステム更新等の設備投資により、生産管理及び在庫管理の合理化・品質の改善を図る。

M&A戦略の推進

- M&A戦略検討PJの実行
 - 東南アジアにおける既存関係会社との相乗効果により、規模拡大を視野に、企業買収、資本・業務提携の可能性を継続検討

海外事業拡大PJの継続

- 国内で取引のある日系企業をピックアップ、海外での新規顧客開拓と事業展開を積極的に推進
 - 中国・タイにおける自動車部品用塗料新規顧客開拓
 - 日系企業案件フォローによる事業基盤の拡大及び重防食塗料分野における大型プロジェクトへの参画実現

Appendix.



『RBメタリックシステム』が色材協会賞・技術賞を受賞！



- 業界初ローラー塗装でメタリックの輝きを表現できる建築用のふっ素樹脂塗料「Vフロン#200スマイルRBメタリック」が、今年度の色材協会賞・技術賞を受賞いたしました

画期的メタリック塗料の開発

- 施工事例（神戸国際交流会館）



1981年2月竣工時



2016年10月塗り替え前



2017年4月塗り替え後

【背景】老朽化する中高層ビルが増加する中、施工コストの面から現地塗装による塗替え補修需要の高まり
【特徴】従来困難とされてきた「ローラー塗装による高輝度なメタリック意匠の再現」が可能な上塗り塗料

今後の展望

- カラーバリエーションの追加や、補修塗装性の向上など、お客様の要望に応えた改良開発
- 現状の製品では均一な仕上がりを得るには一定の熟練を要するため、認定施工店制度の確立を進め、市場展開の拡大を図る



（一社）色材協会 橋本会長(左)から賞状と盾を拝受

1.製品紹介

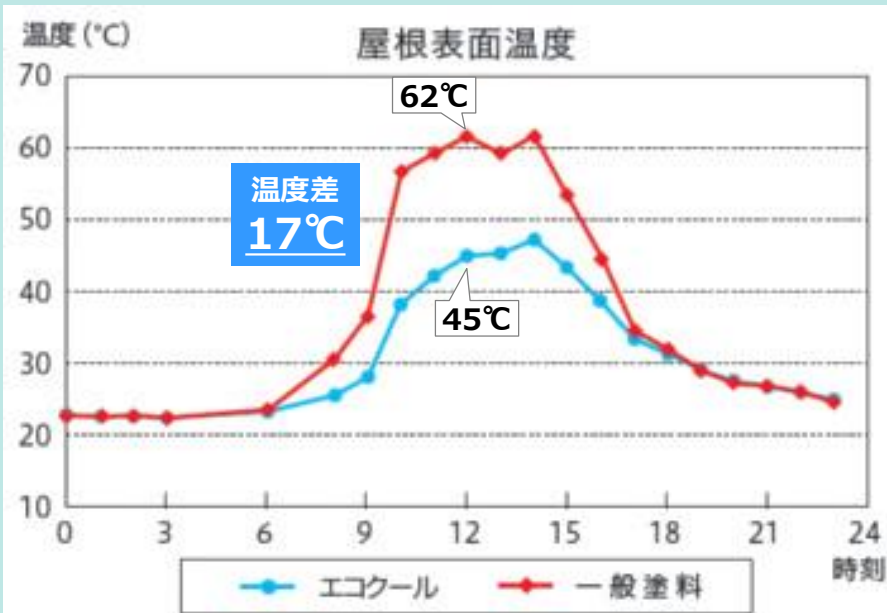
遮熱塗料『エコクールシリーズ』



- 特殊な顔料を配合して、屋根や外装に塗装することで赤外線を反射し、被塗物の温度上昇を抑制
- このたび缶デザインも一新し生まれ変わったエコクールシリーズをぜひご覧ください

エコクールの遮熱性能

- エコクールを塗装したコンテナボックスの表面温度比較



【環境対応】

エコクールシリーズは、**カーボンオフセット対象製品**です。
CO₂の削減に貢献する環境対応製品です。

エコクールシリーズ デザイン缶

- 新キャラクター「ヒエティ」も誕生。
かわいらしいヒエティをぜひ手に取ってご覧ください！



ヒエティ

1.製品紹介

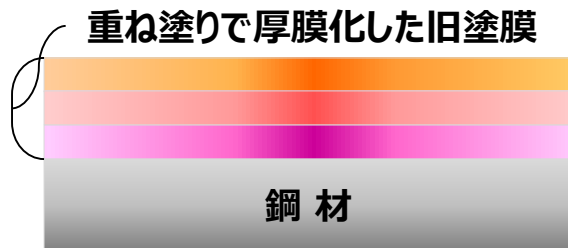
インフラ設備補修用 塗膜はく離抑制型塗料『ケルビンα2.5』



- DNT、四国総合研究所、関西ペイント、神東塗料との4社共同研究により開発
- 線膨張係数[※]に着目し、厚膜になればなるほど剥がれにくいという 従来の常識を覆す画期的な塗料
- 線膨張係数の単位が温度(K:ケルビン)の逆数であり、この技術のキーワードとして“ケルビン”を製品名に採用

— 特許取得 —

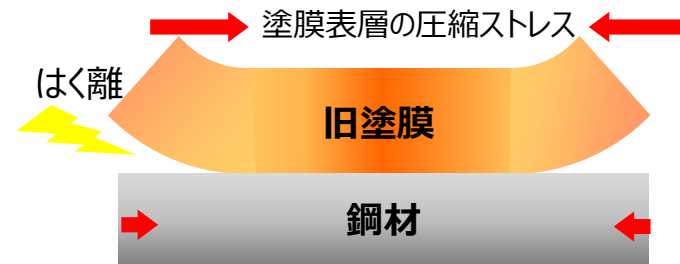
特許第6330100、特許第6351896



①鋼構造物の多くは、メンテナンスにより10～20年ごとの補修塗装が行われ、塗り重ねにより厚膜化

従来工法

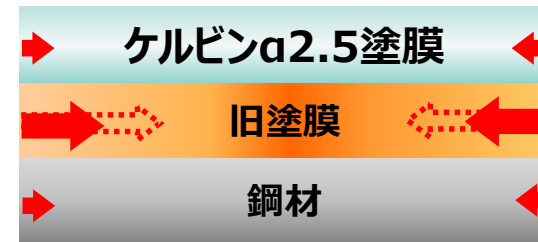
ケルビンα2.5



②厚膜化した塗膜は、徐々に圧縮ストレスが大きくなり、はく離するリスクが上昇。
→ 塗膜はく離により、さび発生等による劣化が進行

※ 線膨張係数とは？

- 線膨張とは、全ての物質にみられる熱膨張現象の一つで、温度の上昇により物質の長さが大きくなる現象
- 鉄の線膨張率を1.0とすると…
【一般的塗料の塗膜】6.0程度
【新型塗料の塗膜】 2.5 → 塗膜はく離の抑制



②ケルビンα2.5塗膜と鋼材で旧塗膜をはさみこみ、
圧縮ストレスを緩和
→ 超厚膜化した旧塗膜のはく離を抑制

2.高機能塗料展出展 2018/12/5~7 @幕張メッセ



- 塗料業界の総合展示会 第1回「高機能塗料展」が5月大阪、12月東京にて開催
- 高耐久性塗装システムを中心に主力新商品を出展、製品・技術セミナーを開催

高機能塗料展[大阪展]概要

会期：2018年5月9日(水)～11日(金)
会場：インテックス大阪
主催：リード エグジビション ジャパン (株)
共催：(一社) 日本塗料工業会

当社出展概要：

- 塗料とインクの総合コーティングシステム
「DNTデジタルコーティングシステム」
- 塗替えにより中高層ビルに高輝度メタリックを蘇らせる
「Vフロン#200スマイルRBメタリックシステム」
- “塗る”素地調整により工数減、再さびリスク減
「サビシャット」
- DNT独自の2層分離技術
「パウダーフロンSELA」等

製品・技術セミナーを開催

- 「一般塗装系と重防食塗装系の分類及び新技術による塗替仕様提案」をテーマに製品・技術セミナーを実施

高機能塗料展[東京展]実施予定

会期：2018年12月5日(水)～7日(金)
会場：幕張メッセ
主催：リード エグジビション ジャパン (株)
共催：(一社) 日本塗料工業会



大阪展での大日本塗料ブース

3.関係会社事業内容

①照明機器事業 (DNライティング(株)・ニッポ電工(株))



- 高い技術力と商品の完成度が評価され、業務用照明機器の分野で独自の強みを発揮。特注品対応、施工などの細やかな顧客対応により、デパート等の店舗照明や高級ブランド店の照明では高いシェアを獲得
- 急速に伸長するLED関連市場において、高付加価値品と廉価汎用商品の開発によるバランスのとれた生産体制を構築し、競争力強化を図る

建築化照明



成田国際空港 第2ターミナル

施主：成田国際空港株式会社 設計：有限会社ゴンドラ
施工：大成建設株式会社 撮影：三輪晃久写真研究所



LILLY PLAZA ONE BLDG.

施主：有限会社建隆マネジメント、日本イーライリー株式会社
設計：竹中工務店・昭和設計 設計共同企業体
照明計画：アカリ・アンド・デザイン 撮影：スタジオマップ前田誠士

- 間接光、透過光、直接光などの光の演出により、建築物の特長を損なうことなく空間を演出

店舗照明



そごう横浜店 B1F

施主：株式会社そごう・西武
設計：有限会社イガラシデザインスタジオ 撮影：荒木文雄



そごう横浜店 B1F

施主：株式会社そごう・西武
設計：有限会社イガラシデザインスタジオ 撮影：荒木文雄

- 様々な色温度、配光、サイズ、形状の照明器具を求める設計者やデザイナーの要望に応え、商品をより美しく演出

LED関連の競争力強化への取組み

- LED関連商品の競争力強化
 - － 高付加価値品と廉価汎用商品の二極化傾向にしっかり対応できるバランスのとれた生産体制の構築
- 新市場の開拓
 - － 屋外・半屋外用LED照明器具の販売強化
- － 産業機器分野・農業分野等へのPR営業強化



DNL PROFILE SYSTEM PFS



屋外用フレキシブルLEDモジュール FXE-LED-WP



きのこ育成用LEDモジュール

3.関係会社事業内容



② 蛍光色材事業（シンロイヒ(株)）

- 蛍光色材会社として、蛍光塗料・顔料における圧倒的な国内シェア
- 素材の製造・販売から、特殊な蛍光塗料を使って建物の内外装デザインまで手掛ける

安全防災マーキング



- 駅ホーム落下防止安全対策のCPラインや河川水害対策の量水標で使用されている蛍光塗料

ヘリポートサイン



- 高層ビルの災害時に効果を発揮する緊急離発着場専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 衣服など繊維の染色や印刷用途で使用されている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

本日はありがとうございました



彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 総務部

.....
電話：06-6466-6661
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。